

こんにちは いつもお世話になっております

三栄です

古布の出し方について

～雨の日は出さないで

令和初の梅雨入り、台風の時期を迎えています。何度か本紙でも取り上げておりますが、時節柄、改めて古布の分け方、出し方についてお話したく存じます。

①汚れているもの、油の染みたものはNGです。

古布は、50%が中古衣料としてリユース、残りが工業用のウエス、羊毛製品などにリサイクルされています。汚れているものや破れているもの、油の染みたものは次の方が使えません。洗えるものは洗濯をしてから出しましょう。

②ワタ類や布でないものはNGです。

お布団、枕、クッションや座布団などワタ製品はリサイクル出来ません。

(※30cm以下のぬいぐるみは大丈夫です)

また、靴以外の着るものはほとんどリサイクル出来ませんが、麦わら帽子、靴、会社の作業着・制服、反物、毛糸や裁断くず、じゅうたん、敷きマット、雑巾、軍手、雨合羽などのビニール製品、電気毛布などはリサイクル出来ません。詳しくは、各市のホームページをご覧ください。弊社までお問い合わせ下さい。

③雨の日は古布を出さないで下さい

古布はとにかく湿気を嫌います。濡れるとリサイクル出来なくなってしまう、焼却処分をすることとなります。雨の日には、古紙は出しても大丈夫ですが、古布は出さないようにご協力をお願いします。

第57号
発行元

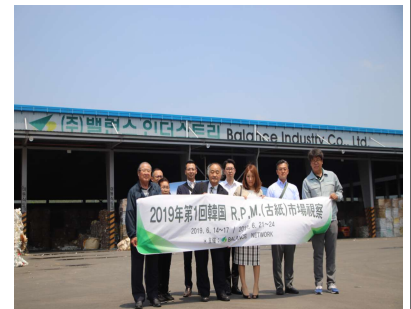
株式会社
三栄サービス
東村山市久米川町
1-16-5
発行人 紺野琢生



IPSuS 0002394

韓国古紙事情を視察してまいりました。

先月、業界紙が主催する韓国古紙事情視察が開催されました。前回号でも古紙の市況が良くないことはお知らせしていると思えますが、輸出価格は買値を下回るまで暴落、国内の製紙会社、問屋には在庫が溢れている状況なので、少しでも今後の見通しが出来ればと思いついて参加してきた次第です。仁川、光陽、釜山の三都市を回り、港湾設備、古紙問屋、商社の古紙備蓄倉庫を視察しました。今回アテンドして頂いた商社の積み替え保管用の倉庫では、日本から輸入した古紙を品目ごとに分けて保管し、まとめてベトナム、インドネシア、インドなどに再び輸出をしているとのことでした。



光陽市の古紙備蓄倉庫にて

現在釜山港近くの土地を開発し、全体で今の倍の一五万トンの古紙の備蓄を達成すると社長は意気込んでおられました。積み替え保管だけでどうやって利益を上げているのか、日本での古紙市況の閉そく感からすると、この旺盛な購買力はどこから来るのか不思議でしたが、取り扱ひ量世界第五位(積み替え保管では世界第二位)のハブ港である釜山港始め、物流の要衝に立地していることがキーンとなって印象的でした。ちなみに日本で最も取扱量の多い東京港で世界第二二位と上位を占める中国、韓国、台湾などの港から大きく差をつけられ

ています。視察を通じて感じたのは、需給バランスはタイトながらも古紙は流通するが、価格的には厳しくなるということでした。

輸入規制をしている中国も国内回収だけでは原料を賄えないと考えられますし、インドなど新たな輸出先もあります。また、この先も古紙の発生量が緩やかに減っていくので、バランスは取れていくのではと考えられます。但し、相互に貿易量も多く、日本からも近い中国と違い、インドなどの国々へは輸送費が余計にかかるため、備蓄力や物流面で我が国より優位な韓国等の国々に頼らざるを得ず、価格的なインシアチブを取られる、いや既に取られていると危機感を感じました。今や国際商品となった古紙で、日本が価格競争力に出来るのは品質しかありません。更なる分別の徹底をお願い致します。